

平成 23 年 6 月 3 日(金)

一日インターンシップ・ボランティア体験に向けて

<はじめに>

「インターンシップ」とは、「就業体験」、つまり仕事を実際に体験します。中学校での「トライやる・ウィーク」とは違い、一日だけという短い期間ですが、受け入れ先の選択・決定、就業体験、事後のまとめまでのすべてを、基本的に自分一人の力で行ってもらいます。ボランティア体験も同じです。先生や友だちをあてにして誰かがなんとかしてくれるだろうというのではうまくいかないし、面白くないでしょう。自分から行動しないと何も前に進みません。面倒なことや苦しいことだらけかもしれませんが、それをやってみてはじめて手に入れられる「楽しさ」「喜び」があることを「体験」してください。

○仕事・ボランティアを体験することから、将来の自分を考えよう！

(1) インターンシップ・ボランティア体験の目的と意義

- ① 社会で働く人々の生の姿に直接触れること。
- ② 職業・社会に関する生きた知識を得ること。
- ③ 社会に通用する常識・マナー（挨拶・頭髮・服装・言葉遣い等）を体得すること。
- ④ ①～③を通じて現在の自分を振り返ること。
- ⑤ 今後の努力目標を見つけ、日常生活の中で実践していくこと。

今年度の体験期間は、夏休み中に一日間の予定



来年度の体験期間は、五日間の予定

(2) 今回の体験で注意してほしいこと

① 自覚を持とう！

「自分の将来を考える」体験は、今回だけで完結するものではありません。今回の訪問先は、来年度もあなた自身や同級生、あるいは次の一年生、今の二年生や三年生がお世話になる可能性が十分にあります。あなた方一人一人が「上郡高校の顔である」ことをしっかり自覚してください。

② 準備とまとめが大切。

体験が終わった後「よかった」or「面白かった」程度の感想しか出てこないようでは中学生と変わりません。この台詞だけで終わるような体験にならないよう、しっかり準備をして臨んでください。また、今回の体験でみつけた努力目標を学校生活に生かすことが大きな目的でもあります。体験が終わればそれで終わりではなく、2学期には体験発表が待っています。

③ 積極的に行動しよう！

お世話になる現場の方々といろいろな話をしてください。この取組みがなければ、きっと出会うことのない人です。世間話の中からあなたが感じたり、考えたりしてください。そして、この体験を自分の将来を考えるための材料にできれば、大成功の一日体験だと言えるでしょう。

(3) 一日体験に対する準備と心構え

① 体験学習に対する意識

「職場に高校生を受け入れる」→担当が必要 + メニュー作成が必要

=受け入れ側の大変な思いと労力

→受け入れ側にとってあなたはどのような存在なのか？

→なぜ受け入れてくださったのか？あなたはどうすればよいのか？

上記のことを考えることが大切です。考えることで見えてくることがあるはず。

② 体験先でのマナー

a 時間 10分前集合厳守

b 服装・身だしなみ

外見は内面を表す鏡。制服の着用・頭髪等の身だしなみは清楚・清潔が絶対。

化粧・アクセサリー等は言うまでもなく厳禁。

c 言葉遣い・あいさつ

大きな声であいさつを行い、はっきりとした返事をするのが基本です。相手に失礼がないように、その企業（事業所）・施設、その場にあったあいさつや言葉遣いができるように努めます。また参加生徒が複数の場合、体験中にお互いを愛称で呼び合うことのないようにします。仕事（作業）に関係のない私語は厳に慎まないとはいけません。

例 朝「おはようございます。一日だけですが、精一杯がんばりますのでよろしくお願いします。」

d 指導担当者

指示・指導は絶対です。（感情を相手に分かるように態度・表情に出すのは幼稚な行為です。）

e 守秘義務

仕事（作業）上で知り得た情報は、一切他の人に漏らしてはいけません。特に、企業（事業所）・施設などにおいては、組織、技術、個人のプライバシーに関することなどあらゆる情報のやり取りを行っているので、その取り扱いは慎重に、そして絶対に外部へ漏らしてはいけません。また、直接口外するだけでなくインターネット上の掲示板などを使って特定の企業（事業所）・施設や個人を連想させるような事柄を掲載することも許されません。これらのことは期間中も期間後も当然守らなければならないことです。

③ その他の注意

a 体験先への先生の引率はありません。基本的に全てを自分で行います。事前の打ち合わせもみなさんが体験先に電話をかけて聞くか、直接伺って聞くことになります。

すべてが勉強だと考え、積極的に自覚を持って取り組んでください。

b 体験先でのルール、指導には必ず従ってください。自分がもし予想もしてなかった内容や期待に反するようなことがあっても常に前向きに取り組んでください。

c 体験中に不都合が生じた場合は担当の方に速やかに報告してください。それがたとえ自分の失敗から起きたことでも、決してあわてずごまかさず早く報告し、担当の方に対処していただきましょう。

d 体験先（体験先への往復も含む）での事故などは必ず学校にも連絡すること。

e 体験中は携帯電話を身につけておくことは厳禁です。学校と同様に電源を切り、鞆の中にいれておくこと。